海猽、犢及ビ猿ニ於ケル結核初期變化群ニ就テ

東京帝國大學醫學部病理學教室

刮

治

道

一、人類ニ於ケル結核初期變化群ノ概要

眼的 性壞 アル。 ガ結核 テ 見ヲ、 初期變化群ノ詳細 テ見レ **丈ケデ治癒シテ居ル事實**. 或ハ小兒結核,死亡例ノ様ナモ 臓器ニ傳播スルマデニ 獨墺ノ / 疑固 觀 實際 二乾酪ノ樣ナ性狀ヲ呈スルニ至ル。 死 1性壊 余ハ今必要上、 バ初期變化群ノ特有ナ點ハ初感原發竈ヨリモ、 バ初期變化群ノミノ病期 病理解剖學者等ニ依テ認メラレ 前 ニ感染シテ後、 ノ場合、 年、余ハ本邦人ニモ同様ニ成立シテ居ル事ヲ知ツタ(第三囘日本結核病學會宿題報告、絡方教授)。 死デア 種デアル。 二關 病理解剖ニ當テ、 *∄* 一ハ或ル 或ル時に 結核デ生ズル疑固 之レニ特有ナ種々ノ變化ノ内、 シテハ歐文デハ前記ランケ氏ノ外ゴーン、 淋巴腺 及ビ進行性 時 日間ハ其ノ病變ガ一定ノ淋巴系内ニ止ツテ居ル、 ノデハ比較的速カニ血行ニ入ル Ħ デハ主ト 剆 ガ 初期變化群ヲ決定出來ルノハ 在 jν ランケ氏ノ第 ルト云フ事ヲ物語ルモノデアル。 ノ場合ニモ 性 ニ至ツタ、ランケ氏ノ Primärkomplex der Tuberkulose シテ乾酪變性デ有 コ |壊死ハ ホ 氏 初メハ濕性ニ見エ 初期變化群 海猽 乾酪性變化ニ就テ數言ヲ費シタイ。 寧ロ之レニ屬スル淋巴系統ノ淋巴腺ニ於ケル 期ナルモ 結核威染實驗 iv ŀ 述べ Æ ノヲ人類ニ於テハ承認スル事ガ プール氏等ノ報告ガアリ、 多ク、 其ノ淋巴腺ノ變化ガ他ノ病竈ト異テ居ル , テ居)レ 0 ŀ 思ハレルガ、 此壞死竈ハ jν o 勿論此時日ナル 古サニ於テ他ノ變化ト明カニ 項 コッ 其 換言スレバ感染後血管ニ據テ菌ガ諸多 朩 融解セ 病理解剖 治癒シタ結核例ノ多クガ初期變化群 氏 ハ 然 モノハー定シテハ居ナイ。乳兒 乾酪變性ハ云フ迄モ シ其 ヌ限リ、 本邦デハ緒方教授ノ ラ記載 間 出 (結核初期變化群)ナル所 來 漸次ニ 病變ニ在ルト云 判然タル定義ハ下シ ī 區 ŀ 内臓デ 思 別シ得ル 一乾燥シ 此事實ハ人類 カラデアル。 っ 之レヲ以 ナク疑固 がアリス テ、 報告ガ 主トシ

岡=海猽犢及ビ猿ニ於ケル結核初期變化群ニ就テ

原

腺 部 シ ν 言ヲ紀 テ、 一个用 居ナ 居 钐 = 周 魔炎ラ 之レニ 沿ウテ居ル氣管枝壁ニ堅ク癒著シテ居ル 肉眼的 ク乾性デ有ツテ、 之
レ 牛 ゝ 甚 ラ 濕脂 起 レテ 我 シ 乾 種々ナ ス程度が强 វ 境界 Þ 場合ニ 性 ナ 居 3 Æ ガ明 IJ ۲ ル度合 歐米 ノト 濕性トヲ別ケテ居 ŧ 多數 確デ、 遙カニ乾酪 腺全部ガ壊死ニ く。 乾燥シテ粗 ラ濕性 病理解剖學 ノ乾酪變性竈中乾性ナノハ初期變化群**丈**ケデアル場合モ**少**クナイ。 從テ治癒ニ向ツタ場合ニ 被囊ヲ ニ親シ 見ル ク見ユ Æ ノニ 書 ル。 一陷テ居立 事ガ ンデ居 就 余モ ハ jν 多イ 忙 ノヲ常ト ŧ テ見ルト多クハ凝固性壊死ノ内、 亦壞死 w シサヲ避ケル ノトヲ別ケテ居ル。 事モ 歐洲人ニ 胹 ス ァ 1 シテ淋巴腺 iv o 周圍 明力 IV. ハ ナモ 乾酪 為メ 同ジ程度 = 結綿織癒著ヲ起シテ來ル。 内デ ノハ 性ト云フ言葉 **+** 々斷ハラナイ。 くこ 見エ 之レヲ乾酪變性 Æ 常ニ、 ス氏ノ記載ニモ w 結核 乾酪變性竈デモ第二 初威原發竈ニ ハ常 余 ニ見ラレ 識 ト呼ど、 的二 ノ經驗デ 結核性凝固性壞死ヲ乾酪 石灰化シタ肺 用 至 w ヰ IV 乾燥顯著ナ場合ニ ラ ハ 4: 般二是等乾性乾酪 初期變化群 氣管枝壁ニ 1 レテ居ル 期 ヲ乾酪性變化 門部 モ 樣 淋巴腺ハ之 = 接シテ出 ノ淋巴腺竈 = 比 見 乾 シ 變性 工 ŀ テ 呼 性 jν

慢性 淋 織 腺 數 或 我 判 = = 巴资 然 增 組 依 置 1 17 縦隔竇二 殖 織 ŀ 稀 ガ 結核ニ イテ乾燥シ 締織 最 モ ス カ 片影 ル。 度 jν タ 紋様す 淋巴 屢 增 ガ w 於ケ 減 特二 æ 殖 Æ テ)腺ノ乾酪變性ヲ見ナイコト ジ、亂レ 殌 遭遇スル、 チ 見 iv 結核ノ場合ニ 來 傾 Ľ, 何ヲ 初期變化群淋巴腺列中、 1 ヌ w ıν 事ガ 事 ŀ jν テハ居ル 一帯ビタ 割 ショウスキ ガ出來 第一 ア 面ガ顆粒性 jν ° 一期ニ於ケル腹腔内、 ハ 類上皮細胞 jν ガ原組織ヲ覗ウ事ガ出來ル。或ハ淋巴竇「カタル」ノ狀態デ壞死ニ陷ツタ像モ 比較的速カニ 然ル 1 且是等ノ = ニ見エテ來ルモ 初 7 威原發竈 結核節ガ V 乾酪竈 古ク シュ氏鍍銀法ヲ 初感原發電カラ比較的遠イモ 網狀織増生す 即腸間膜、 カラ知ラレ 存 ハ境界ガ截然トシテ居ナイ。 近ヅクニ從ツテ類 在シテ居テ、 ノデアル。 起 適當ニ行ツタ場合ニ ア居 テ、 門脈周圍及ビ後腹膜諸淋巴腺ノ廣汎ナ乾酪變性ニ於テモ ス 是等ハ注意シテ見ルト ガ 場合ニ 故 初期ニ = 上皮細胞結核節 依テハ ノニ於テモ、 格子狀纖維 近ヅクニ從テ甚シク侵サレ 殆ンド 明カ 之 デ ヲ アル 割ヲ 之レニ割ヲ 增 全部ガ之レデ 組織學的 ラ像 加 ガ 加 ハ 少クナ 発 如 二檢索 タ 1 得ナ 加个 パ 'n, 埋 乾酪變性 カ テ暫ラク空氣中 4 IJ jν メラレ 有ツテモ 1 Æ 時 ŀ 見ラレ , テ原淋巴 其理 デアル 內 Æ 理 *γ*ν_c 紿 由 割 名 的

ナイ。 Æ 考へ得ルガ如ク、 再ビ云フ、 是等ハ初感原發竈ニ最モ近イ淋巴腺ニ見ラレル像デアル。 實際二於テモ壞死ガ速カニ起ツタト思 ハレ ル竈程、 格子狀纖維ノ増殖ハ少ク、 且太サモ増シテ居

居ル 見ルノハ餘程稀有ナ事ト考ヘラレル。余ハ不幸ニシテ其淋巴流源ニ强イ結核性變化ナシニ、 叉人體解剖ノ際ニ注意サレ 例ニ遭遇シナイ。 特ニ四肢ニ於テ左様デアル。 ルノハ、 甚シイ粟粒結核症ノ場合ニモ、 之レガ爲メ淋巴腺ニ乾酪變性ヲ起スト云フ様ナ事 淋巴腺ニ乾酪變性ヲ起シテ

考慮シタ今一々ノ記錄ヲ略シテ總括的ニ之レヲ述ベテ見タイト思フ。 余 人體 ニ於テ確カメ得タ初期變化群ノ所見ニ出發シテ、 海猽、 犢 ノ實驗的結核及ビ猿 ノ自然結核 病理解 觀

實驗的結核海猽ニ於ケル淋巴腺病理解剖

居ルガ、 **玆ニ述ベル事柄ニ關シテ必要ナ知識** 海猽ハ醫學各般、 當テ、 關シテハ研究サレテ居ルガ、 叉一方、 余ハ其ノ點ニ困難ヲ感 手二入り易不點ト自然感染ノ少イト云フ點モ亦一 特ニ結核ノ實驗ニ最モ廣ク使用サレテ居ル。之レハ結核菌ニ 生理、 ÿ 目下モ ハ得ル事ガ出來々。 解剖、 **猶調査ヲ續** 組織學ノ基礎諸學ニ就テハ詳細ナ檢査ガ少イ様ニ思ハレル。 優行シ居 ルガ故ニ、 因ヲナシテ居ルデアラウ。 何レ其レ丈ケヲ別ニ報告シ 最モ敏威デアル 事ガ 從テ 得 病理學、 其 ア原因 ルト思フ。 淋巴腺ノ檢索 病理解剖學 成ツテ 然シ今

得タ考案トヲ記サウト思フ。 載 海猽ニ自然感染ノ稀レナ事實ハコッ シテ居ル。 然シ余ハ末ダ自然感染例ヲ見テ居ナイ。 ホ氏モ早ク認メテ居ル。 此處ニハ 而シテ自然感染ト實驗的結核ト幾分相違ノ存在スル 自ラ 注意シテ 解剖シタ實驗的結核例 所見ト之レニ據テ 點ヲ記

重凡三五〇瓦內外、 ナノハ淋巴腺結核デ有ツテ、 今迄解剖シテ來タ例中、 研究ニ使用サレタ材料デアル。 人型菌傳研青山B○・一瓩ヲ腹部皮下ニ注射シ、 初期變化群ノ研究ニ最モ適シテ居ル 夫レモ「サノクリシン」ノ影響ニ就テハ言及シナイ。 此材料 ラ病理 解剖學的研 究ト其ノ ト思ハレ 發表ヲ許サレタ御好意ヲ威謝ス 一〇七日後撲殺シタ。解剖 ルノハ傳染病研究所ノ佐藤技師ガ「サノクリシ 例數ハ十六デ內八例ガ對照デアル。 結果此菌 jν, 然シ余ニ今必要 毒性ノ弱 イ

ノト思ハレ タ。 毒 性 ノ强イノハ變化ガ多過ギテ初期變化群ノ研究ニ適シナイ。

傾向ヲ持ツ類上皮細胞結核節ヲ形成シテ居ル。 部局所ニ特ニ明カデアル例ハ無ク、更ニ其ノ組織學ニ於テモ人類ニ於ケル 竈ノ大小ハ注射部局所ガ必シモ大キクハナイ。 是等ノ動物 (Kniefaltenlymphdrasen) 膵脾淋巴腺、 腫脹 度合モー様デナイ。 膿ガ排出サレテ瘢痕治癒ヲ示シテ居ル。 類上皮細胞結核節、 ノ半 数二八注射部 肉眼的二其ノ古サヲ區別スル 腋下部ハ之レヨリモ强イ。 或ハ甚ダ小ナル乾酪變性竈ヲ見得ル。 ノ膿瘍ガ存在シ其大サハ最大「レンズ」豆大デ、 |氣管及ビ後胸骨腺等デ、是等ニハ殆ンド毎常乾酪變性竈ヲ見出シタ。其ノ乾酪變性 全例ヲ通ジテ變化ノ著明ナ ノ 其他ノ淋巴腺デハ腸骨腺、 寧ロ膵脾腺ニ最大ナルモノヲ見ル事ガ多イ。 ノハ困難デ、明カニ乾性 其内デモ後腹膜腔上部 後腹膜腔 樣ナ關係ハ見出シ得ナイ。 ハ注射部局所淋巴腺、 結締織ヲ以テ被包サレテ居 ノモノハ見出シ得ナイ。 ノ諸腺、 ノ腺ニハ强ク、 氣管及ビ後胸骨腺 頸部及ビ 即鼠蹊部皮下淋巴腺 施下 一様ニ 被囊ニ就 IV. 中央部 部 残リノ半 結締織增 ノ腺 テモ ノ侵 ハ最 ニ不定 注 サレ 數 殖 射

强弱ト 弱ク、 肉眼的腫脹ノ度ハ感染後ノ時間ノ長短ニ依ラ差ガアル 頸部ト同程度デアル。 ハ平行シナイ。 一般ニ米粒乃至「レンズ」豆大ノモノガ多ク、 ガ、 本例ノ如キ長時日後 豌豆大ハ少イ。 ノモ ノ デ ハ乾酪變性 大大小

ŀ

腸間膜淋巴腺ノ侵サレテ居タノハニ例デアツタ。腸結核例ハ無イ。

部局 淋巴腺 何レ 僅 所 ŀ ノ病變ノ程度ト共ノ淋巴流源ノ病變ノ程度トノ間ニハ殆ンド、 カニ數個 ニモ肺ニ 相去 事遠 ハ肉眼的ニ數個ノ、 ノ灰白色ノ粟粒結核ヲ有シテ居ル、 クナイ程ノ變化ヲ示シ、 灰白色、 脾 **乾酪變性** ハ 或ル 肝ニハ一般ニ甚ダ輕度デアル。 例デハ殆ンド其全部ガ結核ニ變ジ廣汎ナ乾酪變性 ノ無イ粟粒結核ヲ見出 平行的 スニ過ギナイノニ氣管及ビ後胸骨腺 關係ヲ見出シ得ナイ。 然ルニ膵脾腺 ハ殆ンド常ニ最 全例ヲ通ジテ、 ニ陷リ、 ハ注射 他 强 ノ例 其

之レヲ要ス ノ海猽實驗的 = 結核 海猽 ノ實驗的結核ニ モ 度モ初期變化群ヲ區別シ得タ事ガナイ。 人類ニ著明ナ初期變化群ヲ見出 シ >得ナカ ッ タ ト云フ結果ニ立チ至ツタ。 余 他 ノ機

侵サレテ居

其間

三平行的

ノ所見ヲ見ナイ。

三、實驗的結核犢ニ於ケル淋巴腺病理解剖

余ハ「サノクリシ 無イ範圍ニ於テ淋巴系統 、既ニ數十頭 ヤア」種、 或ハ其ノ雑種デ年齡ハ 一年内外トノ 事デアル。 ノ解剖ヲ行ツタ。 ン」研究會ノ實驗ニ係ル實驗的結核犢ノ病理解剖ヲ行フ機會ヲ與ヘラレタ。 ノ結核ニ就テ總括的ニ記述ショウト思フ。 余ハ今「サノクリシン」ノ影響ニ關シテハ何等言及スル 感染ニハ牛型菌ノ培養或ハ組織菌ヲ用 使用シテ居ル犢ハ乳牛、 自由ヲ有シ 同研究ハ目下猶續行 特 = ・ナイ。 オ Ł jν 接種 スタイ 唯 夫レ ア

感染結核ノ解剖ヲ行ツタ事ガナイ。 牛型菌ト云フ特別ナ種ガ存在スル様ニ牛ニハ自然感染結核ガ多ク、 叉牛結核 ノ初期變化群ノ文獻ニ接シナイ爲メニ自然ニハ初期變化群ガ成立 個々ノ材料ニ就テ組織學的ニ見ル丈ケデ全身ニ就テ系統的ニ觀察スル 特ニ乳牛ニ多イト云フ事デアル。 ス ルャ否ャヲ知ラヌ。 余ハ未ダ成牛自然 、機會ガ無イ爲

腹腔、血管内等種々デアル。

自然感染ノモノモ一頭アツタ。

テ居 臟 腹膜腔首部 肺 岐 肺尾葉ノ淋巴流ヲ受ケ 實驗犢ニ於テ接種方法ノ差異ハ各局所淋巴腺病變ノ輕重ニ差ヲ生ズルカ、然シ夫レハ絕對的ノモノデナイ。 如何ヲ問ハズ常ニ最モ强ク侵サレテ居ル ナイ。 テ (部ニ存在 此場合 居 止 比 頸部皮下二接種 ヤ シ 其際人類ニ於ケル上部ニ多ク、 ラル 其 テ ハリ縦隔資 淋巴腺 嵵 モ縦隔實尾部腺 淋巴腺二乾酪變性 四五箇ノ淋巴腺 ノ胸腔内諸淋巴腺ノ病變ノ狀態カラ察スル / 病變ガ iv o 特二其尾部腺 此部 タ場合ニハ同側ノ頸淺部淋巴腺ガ强ク侵サレル 强 最 1 = 肺淋巴ノ一部分ヲ受ケルニ過ギナイ。 來 屬 强 特 スル 二慢性 他一 ク侵サレテ居 ニ强イノヲ常ト ノハ縦隔竇尾部淋巴腺デ、屢~「バナナ」大ニ腫脹スル。 腺 下部ニ少イト云フ様ナ關係ハナク、 ハ 腸間 猶此他ニモ三四箇存在シテ兩側首葉及心葉ノ淋巴流ヲ受ケル。 經過シ 膜 タ場合 スル。 殆ン 何 ŀ, ١, 腹腔内接種ノ場合ニモ大網ニ大キナ結節ガ無數ニ出來テ後 = 之
レ 場合ニモ 結節 ノバ ウム氏が常態ニ於テ詳細ニ研究シタ結果ト好 ガナク、 ガ 朋 犢デハ頸部靜脈内接種ノ場合ニハ崩ノ大多數ハ 腹 力 デ ノヲ常トスル 部 ノ淋巴腺 從テ腸間膜腺 ア 首尾背腹、 jν 接種他側 ノ侵サレル事ハ尠イ、 ガ、 いモ侵!サ 何處ニモ殆ンドー様ニ 必シモ此腺ニ最甚シイ 此淋巴腺ハ主ト 頸淺部淋巴腺及ビ テ 居 カイ状 接種 故二氣管分 シテ兩 般ニ内臓 方法 播種 兩 態 心ヲ見 ノデ 致 側 シ サ

原

腺 Subiliacallymphdrüsen (海猽ノ ニ結節ヲ見出シタ。 結核性病變ヲ見出シタ事ガナイ、 一般ニ榮養ガ惡クナッテ來ルト Knicfaltenlymphdrüsen ニ相當スル 是等ノ腺ハ慢性 ノ場合ニハ 此腺ハ萎縮シテ來テ遂ニ肉眼デ見ラレナクナル。結節ヲ見出スモ 殆ンド モノ ト思フ)ニ結核節ノ起ル事ガ屢~アツテ其際、 常ニ侵サレルト云テモ 3 く。 又往々四肢血液淋巴 、其流源

必シモ四肢淋巴腺門部ノモノデハナイ。

變性部 得ラレ レヲ 外側カラ起テ漸次ニ髓質部ニ懭マル。 肉眼的變化ハ皮質部ニ起ル髓樣腫脹デ、 證明シ得ル。 厚イ 結締織被囊ニ包マレテ球狀ヲ呈シテ居ル。 重症ノ場合ニハ縦隔竇諸腺ハ皮質部全部ニ亙テ瀰漫性ニ上記ノ病變ヲ呈スルガ慢性ノ場合ニハ、 而シテ乾酪變性竈ハ比較的速カニ石灰沈著ヲ來シ、 之レハ速カニ硬度ヲ増シテ來テ小サイ乾酪變性竈ヲ生ジル。 斯ノ如キ竈ヲ胸、 腹 (主トシテ肝門部) 四肢皮下ノ諸腺ニ見出シ 二ヶ月後 ノモ 此病變ガ ノニハ 明カニ之 乾酪 部

於テモ到底其新舊、 組織學的ニハ接種局所ナルト否トニ關セズ乾酪變性部ハ結綿織增殖傾向ノ著シイ、 接種局所、 血管性轉移竈局所ノ **温別ヲ見出ス事ガ出來ナイ。** 結核節ノ集リデアル 被囊ノ 狀態

意ヲ拂テ解剖シテ行ク。 斯クシテ實驗的ニ接種部ノ明カ ナルニ拘ハラズ、 特有ナ初期變化群ノ像ヲ見出シ得ズニ終ツテ居ル。 今後モ尚此點ニ注

隔資首部 例 ノ自然感染ハ對照動物ニ起ッタ (胸腔頸部孔中央)淋巴腺二個及ビ氣管分岐腺ニ輕度ノ乾酪變性ヲ見出シタ。 Stallinfektion デ在ツテ撲殺シタ際ニ、 偶然發見シタ 其ノ組織像モ實驗的 Æ ノデアル。病變 ノ場合ト同 甚輕度デ縦

猿ニ於ケル自然感染結核例病理解剖

四

初感原發竈ハ途ニ見出シ得ズニ終ツタ。

宮學士ガ研究ニ使用シテ居ラレタモ 本例い僅カニー 妓ニ甚深ノ謝意ヲ表スル。二頭共 M. rhesus 種デ、共ニー•五○○瓦內外ノ小猿デアル。結核猿ハ五十九日間飼養 頭デ、 他ニ淋巴系ノ對照トシ ノデアル。結核デアルガ故ニ態~余ヲ呼ンデ、貴重ナ研究材料ヲ與 テ非結核猿一頭ヲ解剖シタ゛ 此材料ハ二頭共ニ同ジ教室ニ居ラレル友人西 ラレ タ同學

シテ居 タガ 終り頃ニ اور 體重減少シテ咳嗽ガアツタ。 解剖時ニ結核ヲ發見シタノデ 臨牀的事項ハ不明デアル。 從テ威

染時モ 明カデナイ。

解剖記錄。 女性猿、 體重一三一〇瓦、 解屍 大正十四年十月二十七日。 死後凡一時間

肺兩側全葉粟粒結核。 結核性潰瘍性左側氣管枝炎,四、 兩側氣管分岐、 病理解剖的診斷。 氣管前下結核性乾酪性淋巴腺炎。 一,肺左下葉結核性小葉性乾酪性肺炎、 七 門脈周圍、 纖維素纖維性癒著性左側下半後側部肋膜炎。 後腹膜上部、 結核性乾酪性淋巴腺炎。 結核性乾酪性右側腎癆。 空洞形成。二、肺左上、右全葉結核性小葉性乾酪性肺炎。 八 弋 Æ, 貧血 脾、肝、 左側氣管枝肺、 左腎、 大網、 氣管氣管枝、 大腿骨骨髓 側氣管

解剖時 ラ上部ノ後腹膜腔ノ淋巴腺ニ見タ。 素等ヲ見ナイ。 ニ不定大ノ境界不判明ナ乾酪變性ガアル。 腹腔二癒著、 腸間膜淋巴腺ニハ腫脹ガ無イ。 液瀦溜等ヲ認メナイ。 失レ以下ノ淋巴腺及ビ四肢ノ淋巴腺ニハ腫脹モ結核節モ見出サナイ。 同様ノ所見ヲ腸間膜根部ノ腹部軸動脈 (A. cocliaca) ノ周圍及ビ腎動脈附近 大網ニ少數ノ粟粒大結核節ヲ見ル以外、 膵頭部門脈周圍淋巴腺、六乃至七箇「レンズ」豆乃至豌豆大ニ腫脹 腹膜ハ平滑濕潤デ、 充血又ハ 纖

胃及ビ腸管ハ全部ニ亙リ粘膜面寧ロ貧血性デ、 五・二瓦、全部ニ亙テ無數ノ粟粒大結核節ガ散在シ、 濾胞腫大、 潰瘍等ヲ見ナイ。

一部ハ融合シテ乾酪變性ヲ示シテ居ル。

脾

右腎、 竈ヲ數多見ル。 五六·五瓦、 一二•○瓦、他側1二倍大ニ腫大シテ、軟カク、表面ニ比較的大キナ白濁色ヲナシテ平タク突出シ 割面デハ大部分ガ壌死ニ陷テ、 雨葉ニ散在性ニ多數ノ粟粒大結核節ガアリ、 乾酪變性部ハ軟化シテ居テ割時流出シ空洞ヲ生ジタ。 小サイ乾酪變性ト、 所々黄緑色ヲ呈シテ居ル タ 班紋樣 ノト ノ壞死

副腎、 左、○•三瓦、右、○•五瓦、結核性病變ヲ見ナイ。

六・二瓦、表面及ビ割面ニ少數ノ粟粒大、

乾酪變性ノ結核節ヲ見ル。

生殖器官ハ未ダ成熟ニ達シテ居ズ、 結核性病變ヲ見ナイ。

右側 肋膜面平滑デ炎症性所見ガナイ。 左側デハ下半部 ノ側方カラ後部ニ 亙テ纖維素纖維性癒著ガ存 肋

膜腔、心囊共ニ液瀦溜ガ無イ。

ビ孔ニ異常ガナイ。 一○•○瓦、 硬度軟、 形正常、 外膜平滑、 炎症性所見い無イ。 筋層ハ 幾分貧血性デ濁ツテ 見 工 ル _。 內 膜平 滑 瓣及

肺 面ハ大部分赤色デアル。 左下葉膨大、硬度固ク、 上葉ハ帶赤色デ多数ノ帶黃白色麻實大ノ斑點ヲ見ル。 空氣ニ乏シイ。色大部分帶黃白色デ前面ニハ多數ノ赤色斑點ガ紋様ヲナシテ居ル、 空氣量可。 横隔膜

輕度ノ氣腫ヲ見ル。 右側ハ何レノ葉ニモ左上葉ニ見ルト同ジ斑點ヲ見、 全葉ニ亙ツテ充血シテ居ルガ空氣量ハ可良デアル。 中葉ニハ最モ少ク、 下葉後上部デハ融合シテ居ル。 上葉肺尖部

分ノ氣管枝ハ著シク擴張シテ居テ、 球狀デアル。 乾酪性肺炎ハ氣管枝ヲ中心トシテ起テ居テ、 イ變化ヲ見ナイ。 ル氣管枝ニハ「カタル」ヲ見ルガ潰瘍ヤ擴張ヲ見ナイ。 是等ノ帶黃白色部ハ硬度ガ増シテ居テ、 體 ニ融合シテ居テ、 空洞壁 ハ滑ラカデ 喉頭部ニハ肉眼的ニ變化ヲ認メナイ。 割面デ ハ更ニ甚シク、 結締織増殖ガ無ク、 其處カラ氣管枝分岐ニ至ル迄、 割面デ明カニ知ラレル様ニ小葉性乾酪性肺炎デアル。之レガ左下葉後上部 下縁ニ空氣ノ有ル 所々ニ麻實大ノ空洞ガアリ、最大ナル 乾酪竈ガ軟化排出サレタ痕跡ノ様ニ見エル。 氣管ニ ŧ 最下部ニニ乃至三ノ極メテ小サイ潰瘍ヲ 狭イ小葉列ヲ見ル 多數ノ小潰瘍ヲ粘膜面ニ生ジテ居ル。 外 Æ ر ___ ノハ右上部ニ在テ豌豆大ヲ超エ、 面ニ肺炎ノ狀態ヲ呈シテ居ル。 此大ナル空洞 見 他ノ肺 jν 外 が葉ニス 連ル ハ 著 部

氣管腺 半乾酪變性ニ陷リ、 テ居ル。右側氣管分岐腺ハ豌豆大デ、其ノ左半部ガ乾酪變性ヲ呈シテ居ル。左側氣管氣管枝腺ガ**ー箇小豌豆大ニ** 左側氣管分岐及ビ第一次氣管枝肺淋巴腺ハ各一箇指頭大ニ腫脹シテ、 變性 左下方ノモ ハ五乃至六箇 陷テ居ルガ上部ニ至ルニ從テ變化ガ輕度トナリ動脈ヲ越 ノニ ハ小乾酪變性ヲ見ルガ右方ニハ灰白色ノ結核節ガ存在スル 上記氣管枝肺腺ト共ニ氣管ヲ右方ニ、 麻實大カラ「レンズ」豆大ニ腫脹、 赤色ヲ帶ビテ居ル。 大動脈弓ヲ上方ニ壓シテ居ル。氣管前腺ハ三乃至四箇 jν ハト殆ン 全部乾酪變性ニ陷リ、 其內、 ۴ ノミデアル。 肉眼 的 左側氣管腺ノ最下部 - 乾酪變性ヲ認メナ 右側氣管氣管枝腺一 肺門部及ビ氣管枝 ノモノハ く 腫 箇米粒 大半乾 融著 脹 シ大 左側

灰白色粟粒大結核節ヲ見ルっ 右側氣管腺ハ二乃至三箇麻實大以下ノモ ノヲ見、 充血 モ著シク無ク、 結 核節

乃至二箇ニ過ギナイ。 大動脈弓ト左肺ト ノ間ニハ腺腫脹ヲ見出サナイ。

左側鎖骨上窩部ニニ乃至三箇ノ米粒大淋巴腺ガ在リ灰白色粟粒大ノ結核節 ず存在 フル。 頸部 = ٧, 此他 = 腫脹 明 カナ 淋

腺ヲ見ナイ。

張性デ 增 組 呈シ 竈ハ 織學的 '殖ヲ ァ 各葉ノ上部ニ多イ。 テ乾酪變性部中心ノ格子狀纖維ハ不規則デ有テ、 缺イテ居ル、 ニハ肺ハ滲出性乾酪性氣管枝性肺炎デ、左下肺葉ノ小空洞ハ彈力纖維染色及ビ格子狀纖維鍍銀ニ 事ヲ知ツタ。 是等氣管枝性肺炎ノ他ニ多數ノ小サイ、 最大ノ空洞ハ變化ガ擴大シ過ギテ居ル 周圍 一充血・ 氣管枝トノ關係ヲ見出シ得ナイ竈ガアル。 ´ ノ デ 何 ノ强イ肺炎ガ起テ居ル。 ν ۲ Æ 判斷シ得ナイ。 然シ空洞 血管性轉移竈デアル。 壁 是等ノ竈ハ球狀 ハ全然結締 依ァ氣管枝擴

皮細胞: 淋巴腺 多クナ リ、 結核節 纖細ナ格子狀纖維ガ網狀ヲ成シテ居ルガ類上皮細胞結核節ノ遺殘像ガ甚少ク、 ノ乾酪變性竈ハ一般ニ格子狀纖維ノ增加或ハ太サノ增ス事、 **壞死ノ無イ部分デハ新ラシイ類上皮細胞結核節ヲ見ル丈ケデアル。** ノ集リデアル事ヲ認メ得ル。 四肢 ノ淋巴腺ニハ結核節ヲ見ナイ。 輕イ寳「カタル」ヲ見ル。 及ビ結締織増殖ガ甚少イ。 頸部デ 腹腔内ノ諸淋巴腺 ハ 左下部ノ腺ニ少數ノ類上皮細胞 肺門ヲ遠ザカ 特二 ノ 乾酪變性竈デハ 左肺門部ノ大ナ jν ニ從テ此遺殘像 類 jν Æ

見ガ 圍 タ初期變化群ヲ有スル 上記ノ所見カラ見テ、 結核節ヲ見出シタ。 他ノ部分ト 肝、 腎等ノ結核節デ ノ强イ爲メニ之レ 著シ ク異 腸間膜淋巴腺ニハ結核節モ壞死モ無ク、 余 Æ Æ ノ ト ルニ注目シ ヲ 此結核ガ人類ノ急性小兒肺結核ニ酷似シテ居ルト思フ。 結締織増殖ニラシク、 |判明サ 考へナケレバナラナイ。 初 セル事ガ出來ナイ。 タ。人類結核ノ病理解剖學ニ相似ヲポメルナラバ、本例ニ於テハ、 斃レ 壞死ガ强イ。 見ラレ 丽 人類デ シテ初威原發竈ハ恐ラク iv. ハ 大腿骨骨髓內ニ類上皮細胞結節ヲ 小兒結核ニ之レ ニ似タ場合ガ稀レデナイ。 左肺後上部ニ起ッ 而シテ左肺下葉ト其ノ淋巴系統ノ所 組 タモ 織的 左肺下葉カラ起ツ ノデ 見出 アラウガ周 組 織的變化 シ タ。

カ

ラ云へバランケ氏

第一

期

メ

タモ

ŀ

原

五、考 按

腔何レ ナイ。 移い肺 事實ヲ認メテ居 以上ノ所見ヲ病理解剖學、 內注射 比較的 變化群ニ特有ナルモノヲ見出シ得ナカツタ。 P ン 系 短時間內 V ۲. 見タ ニ見出 ヌ 存在 知ラナイ。 否證明スル事ガ出來ナカツタ。 最モ カラ接種シテ 短時 然シ 難デアル。又此場合結繙織增殖ガ比較的速カナ爲メ接種局所ト 、場合ニ 主ト 其 經過 得ナイ 此場 ナイ 早期ナモ 日ニ血管性轉移ガ ノ變化ノ度合カラ考 シテ生ジ、 つスル ハ殆ンド全部ニ近イ敷ガ肺ニ沈著スル樣ニ思ハレル。 又犢ノ淋巴腺デ牛型菌ト人型菌トノ組織反應ノ差ガ 合ニモ遂ニ明カナ初期變化群ヲ證明シ得ズニ ŀ サへ考へラレル。 1 叉病理解剖學 ガ當然ト云ハチ モ同樣デアル。 E ノデアル ノト観ナケレ 從テ縱隔資尾部淋巴腺ニ變化ガ最モ著シイ。 特ニ初期變化群ヲ主眼ト 行 ガ、 ヘテ兩者 是等ノ 的ニモ短時日ニ V バナラナイ。 之レヲ人類ニ於ケルランケ氏ノ病期分類觀カラ云フナラバ其第一 犢ニ於テハ余ハ未ダ何時間デ菌ガ血行ニ入ル タモ パナラヌ。 從來海猽デ 時期ニハ旣ニ病竈ハ血管性轉移デ諸内臓ニ ノ間ニ大ナル時 ノト考ヘル 海猽ト比較シテ犢デ注意ヲ惹カレタ 之レヲ極端ニ云へバ病理解剖學的 短時間內二諸內臟臟器二傳播 血管性轉移竈ノ生ズル事ガ認メラレル。 結核感染ノ實驗ヲ行 シテ觀察スルナラバ、 ノ外ハナイ。 日ノ 終ツタ。 隔 ij ガ 如何ニ異ル 存 余等ノ行ツタ様ナ方法デハ犢ニ 叉海猽ト異ル 腹腔内接種ノーケ月後、 在 肺淋巴系トノ間ニ ッ スル タ 海猽ニ於テ余ハ未ダ初期變化群ヲ證 諸家ハ等シク極メテ速カニ ŀ カ スルモノト ハ カト云フ文獻ニ ノハ接種部ガ Æ ニ海猽ニハ人類ノ初期變化群ノ期 考へラ 一擴マリ、 ノハ 知ラナイ。 組 脾ノ侵サレル ν ・スレ 是等ハ皮内、 ナ 織 イ。 結締織増殖 的異同ヲ起シ 皮下接種ノニヶ月後 何處デ有ツテモ血管性 余ノ觀察ハ牛型菌 バ初期變化群ヲ或ル 接シテ居ナイ為 故 二此場合二 期ハ海猽ニ於テ 初期變化 事ガ甚少 菌ガ血 モ著シ 皮下、 難イノ 經口 明シ 行 二入 犢 カ ノミデ ・テ居 淋巴 ガ 起 初期 モ 余 腹 w 知 ス 脈 轉

次ギ ŧ 實驗二 ニ自然感染ノ場合ノ カ 否 カ 全ク無經驗デアル 知ラナイ。 病理解剖ニ コ 朩 ガ故ニ、又猿ノ實驗報告ニ初期變化群ノ觀察ガ無イカラ余ハ之レニ 氏 就テモ 海猽ノ自然感染例ヲ記載シ 海猽、 犢 猿っ 關 シテ初期變化群記載ノ文獻ニ會シナイノデ、 テ居ルガ、 肺及ビ肺門部ノ淋巴腺ニ變化ガ著シイ、 關シ テ知ル 果シテ成立 處ガナイ。 ト丈

喰作用ヲ營ムノハ沈澱以外 大サノ數倍乃至十數倍 差ガ存在スル。 一ノ通過 こっ余 ル資ニ於テ流速ノ變化 猶一言ヲ要スル 各種動物 淋巴腺內 デ 何 二次次 三 對 云ツテ居ル様ニ、 ナラヌ 速 ァ 淋巴系統ノ淋巴腺列 ~ カニ ル。 拘 シテ意味ノ多ィ事ト ノ寰ニ於ケル格子狀纖維 ノ間ニ淋巴系統 ハラ 然シ余ハ今其ノー き結 經 ズ、 過ス 又初期變化群研究 ノハバイ 論 ノ大サヲ持ツテ居ル。此網ノ目デ濾過スル 自然感染結核 ル動物ヲ使用 到達 プ腺 ガガ起 余モ亦右記三種ノ動物及ビ人類ノ間ニ大ナル相違ヲ見 ノ相違ガ著シク、 ッ、 ノ作用デアル。 **ケ氏等モ主張シテ居ル様ニ淋巴腺ハ濾過裝置デハ無ク、** 考へ子 々ニ就テ記ス必要ヲ認メナイ、是等ハ各種ノ成書其他ニ 腺數カラ云フナラバ、人類、 茲二其ノ流ノ內ノ異物ヲ壁ニ沈著セシ プ目 ス ノ狀態カラ見テ、 jν 病理解剖 ハ ノハ |的ヲ以テ、 ナラヌ。 斯ク 淋巴腺 適當デナ 於テ初期變化群ヲ研究 濾過裝置デ 動 ノ位置、 イ(本論文 其ノ網ノ目ハ淋巴管內ヲ通過シ 物實驗ヲ行フ場合ニモ此差異 〜無イ以: 猿、 牛、 數等モ ト云フノハ無意味デアル。寧 大正十五年二月二十日東京醫學會例會ニ於ラ發表 各 Ŀ 海猽ノ順ニ 々異テ居 メルモノト考へラレル。 スル場合ニハ常ニ 淋巴腺列及其數、

クナ

妶

デ モ

ŀ

近イ。 7, 此關係ヲ其各 ミ止ル病期、

ロヤノ

淋巴系統

解剖學ト

合セ考ヘル

ノハ興味アル

事デア

jν

旣

= ノヾ ゥ

氏

ガ

家畜

テ

詳

豣

究比

jν

ガ ム

故

相似 就

揭 細

ゲ

事

水 較

難 シ

- 減少ス

iv o 特二 此點

叉腺

ノ造構ニモ

幾分宛 iv o

寧ロ沈澱池デアル

ト云フ事デア

記サレテアル

カ

ラデア

唯

得

jν

U

細

イ淋巴管カラ

二廣

此際遊離シ

タ細胞 急劇 、墨汁ノ顆粒、

叉

結核菌

牛

異テ居ル、

猿ハ人類

最

故ニ余ハ自己ノ觀察ニ據テ判斷スルノミデアル。

刨

チ 大體

ニ於テ、

海猽

ショリ

牛

猿

人類

(ア順

二初感局所淋巴系統

乃チ初期變化群ノミノ時間ガ延長スル様ニ考ヘラレル。

察ガ見當ラヌ

ノデ、

初期變化群存否ヲ云々シ得ナイ、 ノ結核、空洞形成等ガ記サレ

猿ノ場合ニモ

解剖ノ文獻ハア

jν

ガ 此點

二關

シテハ不明デアル。

自然結核デ肺ニ慢性

デ全身ノ

| 淋巴腺

=

關

ス

jν

比較觀察が缺ケテ居、

且記述

ガ餘り簡單ナノデ、

之レニ就テ考察スル

事が出來ナイ。

叉牛

觀

或ハ腸間膜ニ石灰化淋巴腺ヲ屢~見ル様ニ見聞シテ居ルガ系統的ナ

原 岡川 海猽犢及ビ猿ニ於ケル結核初期變化群ニ就テ 考慮セ

子 如

Æ

物ノ

最 菌

後

ニ注意スルト共ニ、

ラ

淋巴系統

解剖學的

或

造構

解

剖學

的

違